

NPO 法人 志免地域支え合い互助基金

2026.6.24 発行

2025 年度 会報誌

Vol. 8

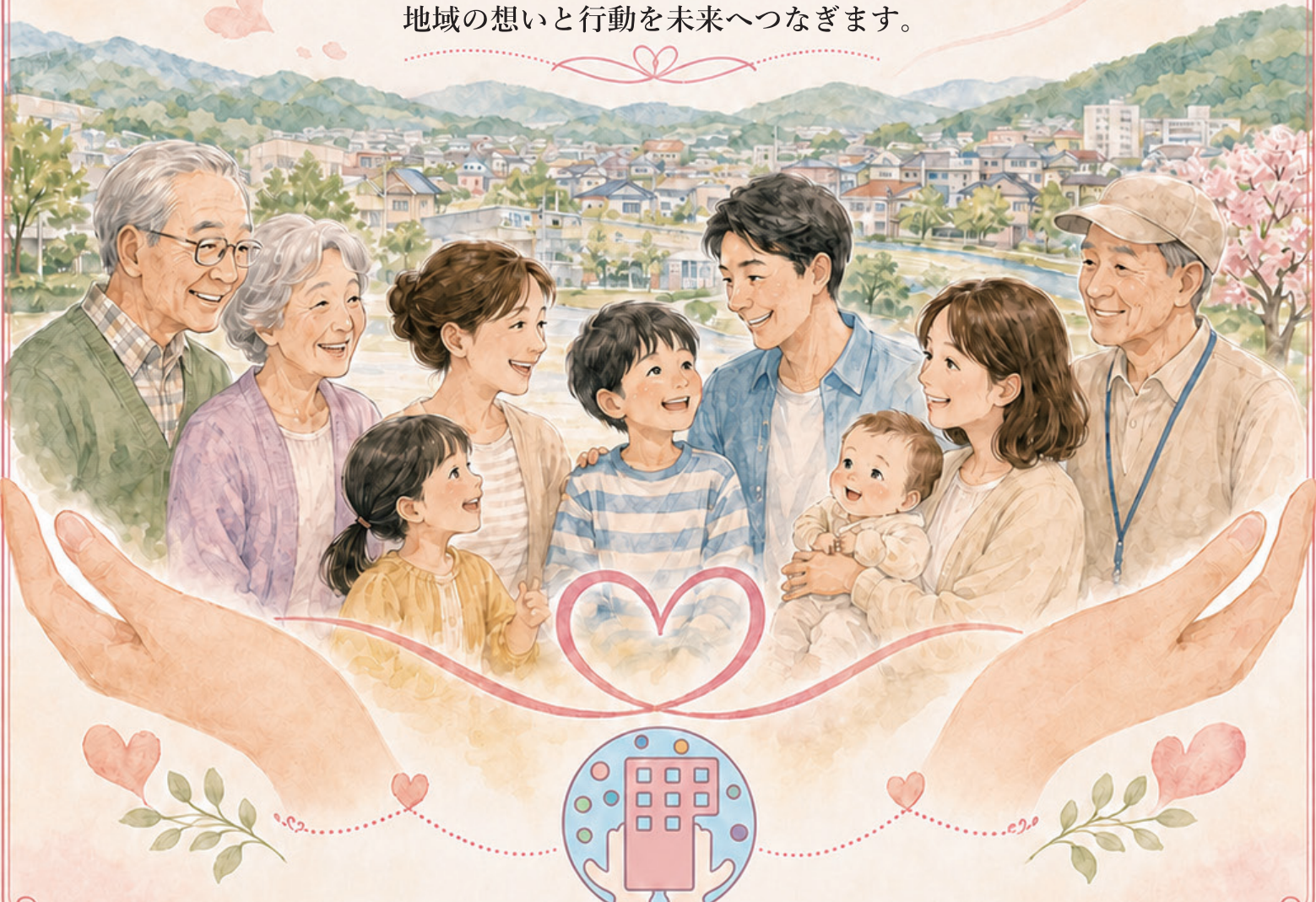
2026 年度 スローガン

多世代協働! いま、その時がきた

人と人がゆるやかにつながり、
地域の想いと行動を未来へつなぎます。

もくじ

理事長ごあいさつ	
理事・推薦人紹介	2
活動のご紹介	4
2025 年度活動報告	5
2026 年度運営について	15



このマークは、NPO 法人志免地域支え合い互助基金の支え合いシンボルマークです。
原案を考えて下さったのは、2020 年 9 月当時、志免中学校 3 年生だった宮島 煌（ミヤジマ キ）さんです。

理事長 ごあいさつ



NPO 法人 志免地域支え合い互助基金

理事長 **青戸 雄司**

(社会医療法人 栄光会 副理事長)

(社会福祉法人 栄光会 理事長)

2026 年度
スローガン



多世代協働！
いま、そのときがきた



「ほっとけない」想いで活動する互助団体を支援する仕組みづくりを目指す法人として、2018年6月に「NPO 法人志免地域支え合い互助基金」が設立され、はや9年目となります。

皆様には、日頃より当法人の活動に深いご理解と温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

私たちの地域では、高齢化や単身世帯の増加、地域との繋がり希薄化など様々な課題が進んでいます。

その一方で、「困った時はお互い様」という想いを大切にしながら支え合いの輪を拡げようとする地域の方々も確かに根付いているように思えます。

当法人は、「誰も孤立しない地域づくり」を目指し、住民同士が助け合い、安心して暮らし続けることができる地域社会の実現に取り組んでまいりました。日常あるちょっとした困りごとへの支援や見守り活動、交流の場づくりなど、多くの皆様のご協力によって活動の支援を継続い

2025年度のスローガンは「競争から協働へ。協働の文化を創造しよう！」(一丸となって志免町づくりに貢献しよう！)でした。2026年度は、「多世代協働、いまその時がきた」です。

志免町で生活する全ての人々が、世代を超えて互いに支え合い、心豊かに生活できる環境を整えることが私たちの使命です。

どうか、今年度も共に力を合わせて志免町をより良くする為の活動に取り組んでまいりましょう。

今年度も、NPO 法人志免地域支え合い互助基金の目指す支援活動を一層充実したものととして発展継続させていく所存です。

どうか、今後ともご支援ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

理事紹介

副理事長
宮本 陽子

(福岡県民生委員・
児童委員協議会 理事)
(志免町社会福祉協議会会長)



世界に誇る長寿国日本。人生100年時代。しかし、齡90を迎える頃ともなると元氣と言えども何かしら支援が必要になります。

公的制度だけでは賄えない。そこで共助、近助が必要になります。そんな時に少しでもお手伝いできればと当法人は活動しています。志免町で長期まで安心して暮らしていけるよう影で支えて参ります。皆様のご理解とご協力をよりよろしくお願い致します。

理事
渡邊 明



米寿で迎えた今年度。こうして志免社会のお役に立てれる事に、心から感謝をしています。朝の新聞配達、昼の地域活動、そして家のことは、健康な体があるからできています。

若い方々と協働することなどで、私の役割や存在意義を感じる事が出来ています。その自己肯定感を持ち続けられている事が、私を私のままでいさせてくれています。

監事
山田 忠政

(志免町町内会連合会長)



2026年度のスローガンは「多世代協働、いま、その時がきた！」に決まりました。これまで、町内会はじめ各種団体は、我慢や義務及び犠牲によって運営されてきましたが、地域コミュニケーションの欠如や人口減少社会において、一部の者のみに大きな負担を強いているのが現状ではないでしょうか？

この現状を打破する為には、関係者全員が2026年度のスローガンのもと「やる氣と情熱」をもって、より良い志免町づくりに挑戦しようではありませんか！

推薦人紹介

(R8.5.12 ホームページ等での調査)

～私たちの活動趣旨に賛同し、
応援して下さる方々です～

久保 千春さま
中村学園大学 中村学園大学短期大学部 学長

田川 大介さま
株式会社西日本新聞社 代表取締役社長

谷川 浩道さま
株式会社西日本シティ銀行
代表取締役会長

松尾 喬之さま
粕屋医師会 会長

山田 喜一郎さま
志免町シニアクラブ連合会 前会長

NPO 法人 志免地域支え合い互助基金について

設立趣旨

住民の方と専門職が協働し、地域で支え合う互助の文化をつくろう！

事業目的

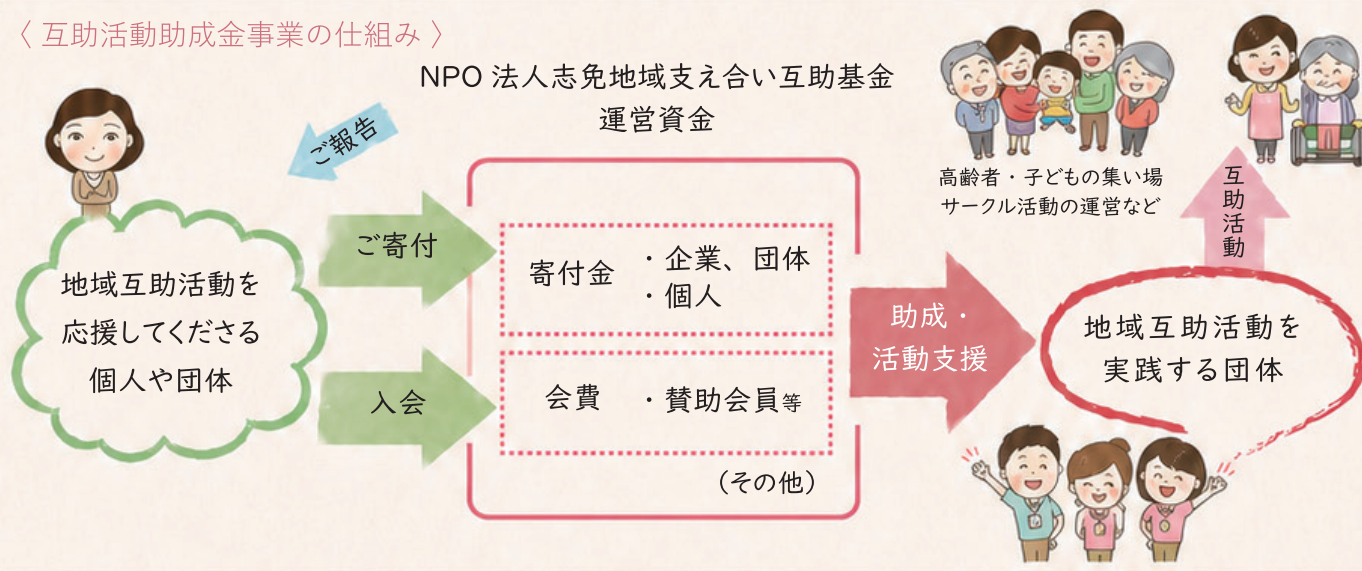
この時代、これからの時代に、高齢者の方や生活困窮の方々の生活を支え、安心してこの町で暮らすことができるようにするには、自助・共助・公助だけでは難しい。やはり、ここに住民同士や住民と専門職等が協働する「互助」の仕組みが必要不可欠です。

私達は、地域で困っている方々を『ほっとけない』想いで支える活動をしている互助団体を継続的に支援できる仕組みを確立し、住み慣れた場所で人生最期まで安心して暮らせる町づくりに貢献することを目的に活動しています。

事業概要

- 1 互助活動コーディネート事業：私たちの活動が橋渡し役や誘い水となり、互助活動に携わる人と人、活動と活動をつなぎ、支援の輪が広がることを目指します。
- 2 互助活動広報啓発事業：私たちの活動や助成をさせて頂いた団体を広く知って頂きご支援を頂くため多様なツールを活用し、多世代に向けて様々な広報活動を行います。
- 3 互助活動助成事業：地域で互助活動を行おうとしている人や団体、既に活動を行っている団体に助成を行い、互助活動の誕生・推進・継続を支援します。

〈互助活動助成金事業の仕組み〉



法人概要

氏名	特定非営利活動法人 志免地域支え合い互助基金活動
設立年月日	平成30年(2018年)6月8日
理事長	青戸 雄司 (設立時の理事長 下稲葉康之)
URL	https://shimekikin.org
住所	〒811-2205 福岡県糟屋郡志免町別府2-2-1 医療介護施設かめやま内
TEL	092(692)1512
メールアドレス	shimekikin@gmail.com

法人の二次元バーコード



法人の
シンボルマーク



活動のご紹介

NPO 法人 志免地域支え合い互助基金の活動紹介ページ

沿革

- 2018年 NPO 法人志免地域支え合い互助基金 設立。
- 2019年 別府3町内会さんと徘徊による行方不明の防止をする為、やさしい声かけ訓練を実施。
- 2020年 志免中学校、志免東中学校の学生さんに「支え合いシンボルマーク」を公募。800通応募の中から選定。支え合いシンボルマークで缶バッジとシールを制作。支え合い新聞発行開始。
- 2021年 住民と専門職の協働モデル事業『生きる力支援推進会議』を実施。志免中学校の有志と「支え合い新聞部」をつくり、地域の支え合いを人や事例を通じて研究する多世代協働を開始する。
- 2022年 さわやか福祉財団主催『いきがい・助け合いサミット in 東京』に登壇し、当法人の説明を行う。
- 2023年 鹿児島から高校3年生の時に町内会長となった唐湊山の手町内会長の金子陽飛さんをお招きし大交流会を開催。
- 2024年 粕屋医師会後援のもと「退院支援から生活支援を考える」と題したシンポジウムを開催。その後『志免町民の生活支援を考える会、まちな保健室・事業者ネットワーク実行委員会』が発足。
- 2025年 「暮らし方ラボ」発足。小学校や中学校と共に多世代交流や多世代協働事業を開始する。「支え合い新聞部」が「支え合い新聞社」になる。



助成一覧

- 2018年 別府1町内会 パワーアップスクール（多機能型学童保育事業）
「地域支え合い互助活動 実践事例に学ぶ」
～大牟田白川地区の取り組みから～
- 2019年 福岡志免ボーイズ（中学生の第3の居場所事業）
しめキッズクラブ（幼児の第3の居場所事業）
別府3町内会 やさしい声かけ訓練
（認知症の方を対象とした住民・専門職協働の声かけ訓練）
みんなの居場所「いこうや」実行委員会
（コロナによる緊急学童保育カレー配食事業）
- 2020年 チーム田中屋 物資及び炊き出し支援
（コロナ渦での被災地支援活動）
王子ふくしのまちプロジェクト
（要援護者の方へ生活支援を行うサポート隊の結成）
- 2021年 チーム田中屋 物資及び炊き出し支援
（コロナ渦での被災地支援活動）
べふ3福祉のまちづくりプロジェクト
（住民と専門職の協働による生きる力支援推進会議）
- 2022年 防災 Eat プロジェクト
（生きるための防災食講座：防災及び防災食への意識向上を目指した講座）
- 2023年 志免清龍隊
（よさこいを通じた多世代第3の居場所事業・多世代協働事業）
- 2024年 おかわり食堂～うま1本～
（食を通じた多世代型の地域活性プロジェクト）
防災 Eat プロジェクト 第2弾
（防災食を教える人材の育成）
みんなの健康プロジェクト志免
（健康をテーマにした志免町住民と専門職による対話の場）
みんなの居場所「いこうや」実行委員会
（中学生への朝ごはんサポート事業）
NPO 法人咲良
（志免町民のタレント発掘やサポートを行う事業）
- 2025年 志免町民の生活支援を考える会
（ホームページの制作）

連携協定先団体

- 2022年～ NPO 法人いるか
（多機能型こども食堂、地域食堂の拠点及びサポーターづくり）



支援団体

- 2025年 志免町民の生活支援を考える会
志免の保健室・事業者ネットワーク志免 実行委員会
暮らし方ラボ・しめ



これからも、住民と専門職が手を取り合い、誰もが安心して暮らせるまちづくりを進めてまいります。

2025年度活動報告

1) 互助活動コーディネーター事業（抜粋してご報告申し上げます）

1 志免町民の生活支援を考える会・志免の保健室・事業者ネットワーク志免実行委員会

2025年度は、毎月第3水曜日の18時30分から、両団体合同の定例会を開催しました。この定例会を通じ、志免地域の現状課題及びその課題を解決していく人財基盤の確立を目標に運営を行いました。

増えてくる志免地域社会課題

介助・介護が必要な身寄りのいない1人暮らしの高齢者及び家族が遠方にお住いの1人暮らしの高齢者の方の生活支援を誰が、どの様に行うか？その際の財源をどうやって捻出するか？



活動内容

志免東中学校と志免町にある互助・支え合い活動団体とのランチミーティングという交流事業を行う。

- ①2025年9月3日の給食時間
いこうや実行委員会メンバー・3年生・考える会メンバー
- ②2025年12月19日の給食時間
志免町消防団メンバー・3年生・考える会メンバー
- ③2026年2月26日の給食時間
志免町商工会青年部メンバー・2年生・考える会メンバー

主な定例会内容

- ①誰とどこで暮らしたいか？（志免町に於ける暮らし方を考える。）
- ②あなたの自助概念を教えてください。（自愛と慈愛）
- ③社会課題の共有 ケアマネ大ピンチ！・お母さんを元気に！
- ④ワンストップ・マッチングアプリの研究
- ⑤佐賀市金立にある地域生活支援団体である「タスキュー金立」視察報告

ここから誕生した団体、これから誕生する団体

- ◆誕生した団体 暮らし方ラボ・しめ
- ◆これから誕生する団体 ①共育ラボ・しめ ②生活支援ラボ・しめ

2 暮らし方ラボ・しめ

志免町で暮らす高齢者が、同じ志免町で生活の便利が良い場所に住み替えたいと賃貸住宅を探していましたが、なかなか貸して貰えない。人生最期まで、コミュニティのある志免町で暮らしたい。と希望をされ太田さんが数ヶ月に渡り探しましたが、高齢者であるという理由で貸して貰えなかった。

地縁組織の衰退、介護人材の減少により孤立化する高齢者が増えるのではないかと危惧する中、志免町で人生最期まで暮らす為の暮らし方を研究し、新たな暮らし方を提案する必要があるとの理由で設立したのが「暮らし方ラボ・しめ」になります。

2025年度は、桜丘1町内会の皆さまとタウンミーティングを開催し、暮らし方に関する事、新たな暮らし提案に対するご意見を、アンケート等で賜りながら「暮らし方ラボ・しめ」流の仮説を立てる事ができました。この仮説を、2026年度は突き詰めていく予定です。



3 九州電力さん・西日本新聞さんと遠隔見守りに関する共同実験

介助・介護が必要な身寄りのいない1人暮らしの高齢者及び家族が遠方にお住いの1人暮らしの高齢者の方が増える一方コミュニティが希薄になるなか、どの様にしてその方の今を知るのか？に対する方策を見出す為、志免町にある町内会や個別の住民のかた20名を対象に実験を行いました。

1 見守りインフラ 九州電力のスマートメーターを活用。

2 実験内容 スマートメーターでイレギュラー通報が出た実験参加者宅を、基金事務局 or 町内会がその方のご自宅を訪問し、今の状況を確認する。

3 準備期間 2025年9月～2026年1月

4 実験期間 2026年1月～2026年3月末

この実験により、在宅型の遠隔見守りを行う上での考え方や押さえるべき要素がわかりました。2026年度は、この経験を活かせる実験を再度行い、志免町の自宅で人生最期まで暮らしたい！という要望にお応えすることができるよう更に前進します。



4 寄り添いサポート お元気訪問活動

2024年度の行った「退院支援から生活支援を考える」のシンポジウム。そしてその後発足した志免町民の生活支援を考える会の定例会に於いて、社会問題の1つとして提起されたのが、ケアマネジャーや民生委員の方々が、本来家族が行う生活支援を、家族の代わりに行っている実情でした。この状態を、そのままにしても良いのだろうか？

その義憤から、3名で寄り添いサポートを結成し、ケアマネジャーさんが行う家族の代わりに行っている事を、どのようにしたら社会で行える様になるのか？を検討するため、現状把握を行うことを目標にお元気訪を行いました。5名の方をモデルに1年間おこないました。

この5名の方は、お子様が遠方にお住いの1人暮らしの高齢者、身寄りのいない高齢者、老老介護世帯、お子様から介護をして頂いている高齢者に分類されます。

1年間の訪問活動を通じ、これらのことを社会で担う為に何をどうすれば良いか？については、2026年度に設立したいと考えている「生活支援ラボ・しめ」にて報告し、その体制づくりに向けて協議を始めたいと考えています。



5

注文をまちがえるラーメン屋 ～ちょっとくらい間違っただとしても、ま、いっか～ in 天龍ラーメン

世界アルツハイマーデーにあたる2025年9月21日(日)に、志免町にある天龍ラーメンさんが「注文をまちがえるラーメン屋」を開催されました。

私達は、8月上旬に志免町商工会青年部長の原さんから「お手伝いをしてあげてください」と頼まれ関わる事を決め、そこから代表の森崎さんとお会いをさせて頂き、私達に何ができるのか?について確認をさせて頂きました。そのなかで、このお店で働いて下さる認知症の方を見つけることだとわかりました。開催まで約1ヶ月。考えられる組織団体にチラシを作成してまわります。その中で、宇美町にあるデイサービスセンターきららの松本代表が「このイベントにきららに通う認知症の利用者さんが参加されることで、その方にとっても良い変化が出るかもしれない」と快く引き受けて頂き、3名の利用者さんが当日天龍ラーメンで働いて下さいました。

後日、松本さんに御礼の挨拶に伺いますと逆に御礼を言われます。「出来事をすぐ忘れる方々が、昨日は楽しかったね。今日も出稼ぎにいこうか..」と言われた様で、やはり「役割・期待される・交流・報酬」を体験することは大事だと再認識しました」と言われていました。こういう素晴らしい企画に参加をさせて頂き感謝の2ヶ月でした。



※このイラストはイメージです。

6

志免西小学校3年生と地域で暮らす高齢者80名との交流事業

「3世代が共に暮らし、老いを知り若きを知る」こういう暮らし方をしている世帯が少ない中、世代間の相互理解がある社会づくりが求められます。その中、志免西小学校3年生の先生達が立ち上がり、表題の様な事業を企画されました。

この事業のコーディネートを依頼して頂きました。今回、別府(菊武会長)・別府1(斉藤前会長)・別府2(西村副会長)・別府3(藤田前会長)にお願いをさせて頂き、2025年12月に2回、2026年2月に2回の合計4回の交流会を開催し、高齢者の方80名が参加をして下さいました。

途中、「どうすれば楽しく思い出深い交流ができるか?」を話し合う授業に参加をさせて頂き、アドバイスをさせて頂きながら学びを得ました。最後は謝恩会を開催して頂き、それは嬉しく涙の出る心の贈り物を頂きました。

書面をお借りし、関係各位に感謝の気持ちをお伝えいたします。



7

志免東中学校 中学生と地域の大人達の「ランチミーティング ～多世代食堂～」

2024年度、「朝ごはんサポート」活動を行うとして、みんなの居場所「いこうや」実行委員会さまに助成をさせて頂きました。この「場」を通じ、中学生側に変化が現れたというお話を伺いました。

早起きをする様になった。朝食をつくって食べる様になった。学校に行けなかったが、この場をステップに友人と親しくなり学校に行ける様になった.. などなど。

「食の場」が持つ力を活用し、多世代が交流しながら相互理解と共働・共創をする事に繋がる事を目指し3度の「ランチミーティング ～多世代食堂～」が開催されました。

第1回 日時・場所 2025年9月3日(水) 12:40～13:40 ・志免東中学校3階ランチルーム
内容 「いこうや」さんに日頃の感謝の気持ちをお伝えしよう!

第2回 日時・場所 2025年12月19日(金) 12:40～13:40 ・志免東中学校2階第2会議室
内容 「志免町消防団」の方々から公共心を学ぼう!

第3回 日時・場所 2026年2月26日(木) 12:40～13:30 ・志免東中学校2階第2会議場
内容 「夢花火」を打ち上げて下さる志免商工会青年部と交流し、社会課題解決に向け対話を重ねよう!



1 活動報告会

弊法人の会議内で、基金と会員の皆さま、基金と寄付者の皆さまの心の距離感（エンゲージメント）について、それが離れていっているのではないかと懸念のなか、毎年発行している会報誌でのコミュニケーションに加えて活動報告会という場もつくり、直接お会いする中でコミュニケーションを行いたいという希望から、この会を企画・開催を致しました。

● 開催日時：2025年10月4日（土）13:30～15:00

● 開催場所：志免町シーメイトホール

● 開催内容

第1部 NPO法人志免地域支え合い互助基金の活動紹介・助成先紹介
助成団体を代表し、志免清龍隊さんの演舞

第2部 パネルディスカッション

『志免町の未来を語り合う！
～安心して暮らせる志免町を目指して～』

● 登壇者

志免町 町長 世利 良未 様

（当日は、挨拶後、公務のため離席）

志免町 議長 丸山 卓嗣 様

志免町民の生活支援を考える会 会長 雨森 優子 様

しめ歴史の会 会長 吉村 和也 様

支え合い新聞社 社長 岡出 葵 様



当日は、開催時間前より豪雨となりました。街中の水路から雨水が氾濫する程の大雨にも関わらず、多くの方々にご参加を頂きました。ありがとうございます。

このような場をつくることで、スタッフ同士の関係性や会員の皆さま、寄付者の皆さま方との関係性も向上していきます。

弊法人としましては、会員の皆さま、寄付をして頂く皆さまと、より良い関係性を構築していく為により良いコミュニケーションに向けたたゆまぬ努力を行います。

2

志免中学校有志と活動する『支え合い新聞部』が『支え合い新聞社』へ！

2021年度から活動を開始し、「ほほえみ結ぶ・しめ新聞」を発行する『支え合い新聞部』。2025年度、3年生・2年生部員と協議した結果、2025年度から『支え合い新聞社』として生まれ変わり、初代社長には3年生の岡出葵さんが就任。大人部員は顧問という立場で関わる様になりました。

ここで『支え合い新聞社』についてご説明をさせていただきます。

❁ 支え合いとは

どちらかが助けるだけでなく、お互いに理解し合って行動することです。

❁ 支え合い新聞社とは

1. 志免町の中で、「どうして人は助け合うのか？」を考え、調べる場所です。
2. 人と人が関わるために大切な「納得できる話し方・伝え方」を、みんなで練習する場所です。
3. 学んだことや気づいたことを、「新聞」としてまとめて発信する場所です。

その結果、志免町が、お互いに支え合える、安心して暮らせるまちになります。

毎回、中学生・顧問の大人達が、志免中学校2階の図書館に放課後集まり、下記についての話し合いから行いながら1つ1つ実行して行きます。

◆ テーマ設定・新聞の構成案づくり・役割分担・取材活動・編集・校正・仕上げ・印刷・配布



2025年度は、年間3回の発行を目指してスタートをしましたが、第6号のみの発行となりました。年に1回の発行で終わりましたが、課題と収穫、出会いと別れという貴重な経験をさせて頂く事ができました。

大きな学びとしては「**時間は有限**」であるという学びです。

これは、第6号発行に際して学んだほか、第5号でお世話になった東努さんから学びました。

新聞発行には締切があります。これを護らなければ年に3回の発行はできません。

また東さんとは、3月5日に東さんの100歳のお祝い&3年生社員の卒業祝いを行う予定でした。

しかし今年の1月、東さんがご逝去されます。お互い楽しみにしていた会でしたが実現しませんでした。

『**時間は有限**』この大切なことを学べた2025年度。

この経験を2026年度に活かし、新聞社として成長したい！そう考えています。

どうぞ、2026年度も『支え合い新聞社』をご支援頂けますよう、よろしくお願い致します。

3

弊法人の理念や事業内容を誰もが伝えれる
広報啓発プロジェクト！

「NPO 法人志免地域支え合い互助基金について教えてください」と質問された際、関係者が伝える内容が違ったり、説明に苦慮するという声を聞く機会がありました。

これを「誰もが伝えれる」ようにする為に、2025年度から吉村ITアドバイザー主導のもとにプロジェクトを開始しました。



第1弾は「AIブログ」です。

基金が行う各種の事業や取組、活動について、社会にわかりやすく伝える為にブログを作成します。毎週火曜日に投稿しました。その結果、毎月のホームページ訪問者数が目標の2.8倍となり、その記事を読んで頂いた方からご寄付を頂く事案も出てきました。



第2弾は「YouTube」の活用です。

活動報告会の内容を撮影し、基金のチャンネルに投稿しました。



2026年度は、「法人のテーマソング」や「四コマ漫画」、そして「キャラクター」を創造する他、インスタグラムやYouTube等のSNSを活用し、多世代に向けた幅広い広報啓発を行って参ります。

4

オンライン上からの寄付への取り組み

ご寄付を頂ける裾野を拓げる為に、2025年度もオンライン寄付に取り組みました。

◎ コングラント社との協働

2025年度も、コングラント様と協働をさせて頂き、オンライン上から寄付をして頂ける環境を整えました。その結果、6件・39,000円のご寄付を頂いています。

寄付を頂いた2法人・4個人の方に、この場をお借りし謹んで御礼を申し上げます。

ご応援メッセージに書いて頂いた内容を胸に抱き、志免町地域の方々のために尽力して参ります。



応援したい方へのページアドレス

https://congrant.com/project/shime_kikin/7935



5

登録・加盟団体等について

NPO 法人志免地域支え合い互助基金は、以下の機関に登録し、以下の団体に加盟をしています。

◎ 登録機関

志免町まちづくり支援室

この登録により、志免町への情報公開を行っています。

また志免町より減免団体として認めて頂いております。

◎ 加盟団体

公益社団法人 東福岡法人会

この会は、よき経営者を目指すものの団体として「納税意識の向上」「会員企業の繁栄」「地域社会への貢献」を活動の三本柱として活動をしている団体です。

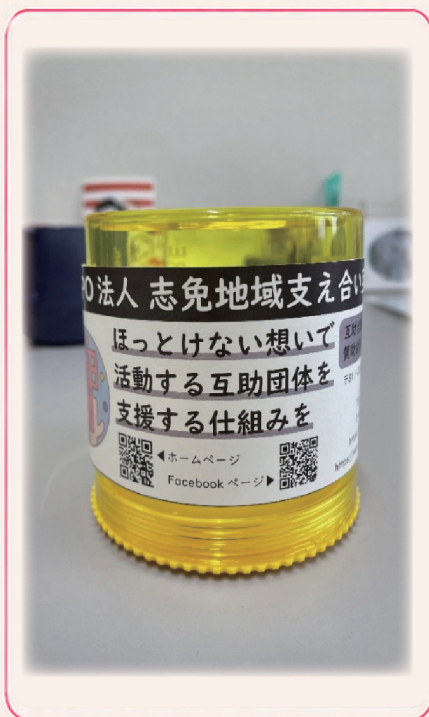
6 支援貯金箱

2022年度から就任して頂いた山田監事の尽力により、志免町のほとんどの町内会様が『支援貯金箱』の設置をして下さいました。ありがとうございます。

貯金箱 右面



貯金箱 正面



貯金箱 左面



2025年度は、平均設置台数41個。年間合計117,080円ものご寄付を頂きました。ありがとうございます。2026年度も、引き続き、よろしくお願い致します。

貯金箱でのご支援を、宜しくお願い致します。

7 支援自動販売機事業

2019年から始まった「支援自販機」事業ですが、今年度も多くの皆さま方に支えて頂きました。
2025年度は、平均13台、年間221,751円ものご寄付を頂きました。ありがとうございます。

【ご支援を頂いている皆さま】

1 (有) 田中屋
代表 田中 清昭さま



2 富士正醤油醸造元(株)
代表 藤 浩太郎さま



3 (株) 大心
代表 牧 昇さま



4 (株) 進明技興
代表 谷 清昭さま



5 (株) たかた商会
代表 高田 照幸さま



6 (株) ゼンケン
代表 伴 義弘さま



7 (株) k's 物流サービス
代表 久保 大輔さま



8 HearSalon NAKAO
代表 中尾 浩二さま



9 (社医) 栄光会
理事長 井上 裕さま



10 (株) 飯田工務店
代表 小山田 義人さま



11 松尾建設(株)
代表 松尾 哲吾さま



12 コカ・コーラ
ボトラーズジャパン(株)



● 志免町民の生活支援を考える会 ホームページ作成

2024年度に開催した「退院支援から生活支援を考える」シンポジウムを受け、今後の志免社会で重要度が増す「本人の選択と本人・家族の心構え」・「どこで誰と暮らすか～住まいと住まい方～」・「介護予防・生活支援」について協議したり、社会課題を共有したり、その意識のある方々と出会う場として「志免町民の生活支援を考える会」が起ちあがり、毎月第3水曜日の18:30～20:00を目途に定例会を開催し、重要課題の共有とラボ開設のサポート及び伴走支援等を行っています。

2026年3月末で定例会も17回を超えますのでホームページを制作し、毎月の積み重ねをしていく予定です。



👥 団体人数 20名

💰 助成金額 100,000円

💖 助成理由 住民・専門職が交わる場であると共に、地域社会課題の共有やその解決案のプレゼン等を行うなど情報を共有し、共に行動に移す場である為、ホームページの存在は欠かせない。



2025年度活動報告 4) 2025年度 賛助会員・寄付等の状況

2025年度に頂きました、ご寄付及び賛助会員数と金額についてご報告をさせていただきます。

【ご寄付及び賛助会員総数並びに総額】



●ご寄付及び賛助会員総数 132件

●ご寄付及び賛助会費総額 1,267,794円



(ご寄付及び賛助会員並びに総額の内訳)



●個人 93名

●法人・団体 39名

●ご寄付及び賛助会費総額 554,906円

●ご寄付及び賛助会費総額 712,888円



(貯金箱プロジェクトの内訳) ※なお当寄付金総額は、上記金額に含まれています。

●2026年3月末現在 設置をして頂いている個数 41ヶ所

●2024年度にご支援を頂きました寄付金総額 117,080円 (上記含む)



(支援自動販売機の内訳)

●2026年3月末現在 設置をして頂いている台数 16台

●2025年度にご支援を頂きました寄付金総額 221,751円



♡ 2025年度も、多くの個人・法人・団体の皆さま方のご理解とご協力により多くの資金をお預かりさせて頂くことができました。ありがとうございました。



♡ 目標にしています『認定NPO法人化』への道のりはまだ遠いですが、できる限り多くの皆さまに支え合い活動の必要性を発信し、活動が生まれ、その活動を支えていく財源として役立てれるように致します。



♡ 2025年度は、志免地域社会における支え合い団体の活動が具体的になってきた年度でした。時代の転換期である現在は、コーディネート事業が核となります。

♡ 今後は、団体活動が具体的になってきたため、必要な資金需要額も視えてきました。その確保については、ロジックモデルを明確にし、それを行うとどの様な効果があるのか？それが志免社会にとってどう良いのか？を測定評価できる軸を提示できるかにかかっていると考えているのと同時に、効果的な広報啓発をどれくらい実施できるかだと考えています。



♡ 2026年度は、これら2つの事をきっちり行いながら、必要な資金を確保し、団体活動が志免町民の為にスムーズに行えるようがんばって参ります。



2026年度運営について

以下、2026年度の運営について、要点を抜粋して掲載をさせていただきます。

1) スタッフ構成



理事長 青戸 雄司・副理事長 宮本 陽子・理事 渡邊 明・監事 山田 忠政
事務局長 下稲葉 圭一・事務局員 鷹尾 剛・江藤 晃・中山 裕子
ITアドバイザー 吉村 和也

2) 法人運営委員会 及び 会議体



- | | | | |
|----------|-----------|----------|-----------|
| ・合同委員会 | 委員長 青戸 雄司 | ・助成委員会 | 委員長 宮本 陽子 |
| ・助成検討委員会 | 委員長 青戸 雄司 | ・広報啓発委員会 | 委員長 渡邊 明 |
| ・経営推進会議 | 議長 青戸 雄司 | ・事業推進会議 | 議長 宮本 陽子 |

3) 2026年度スローガン



多世代協働！ いま、その時がきた

4) 経営重点項目について



- 社会的インパクト測定・評価を軸にした経営及び事業を行う。
 - ① 数量評価→効果評価へ
 - ② 数量評価→主体者創出評価へ
- 人財基盤の強化
 - ① 人の把握
 - ② 各事業を通じた多世代人財開発。
 - ③ 役員及び事務局の多世代運営。
- デジタル広報の活用による多世代及び志免町全域における協働体制基盤の確立を目指す。
 - ① AIの活用強化。
 - ② 多世代基盤づくりに向けた多世代対応型キャラクターの設定と啓発及び情報発信。
 - ③ YouTubeの「互助基金チャンネル」等、動画の活用と啓蒙啓発、情報発信。
 - ④ デジタル活用によるデータの確保と互助・支え合いにおけるプラットフォームへの準備。
- 人収入力・助成力・志免町全体との連携力の強化を目指す。
 - ・スマイルの活用。

5) 各事業の目標



●互助活動コーディネート事業



- ① 支え合い、互助団体の創出。
- ② 志免町民の生活支援を考える会、志免の保健室・事業者ネットワークしめのサポート。
- ③ 暮らし方ラボ・しめのサポート。
- ④ 新設のラボ支援及び生活支援ラボの起ち上げ。

●互助活動助成事業



●互助活動広報啓発事業



- 新規事業 ・スマイルの活用 ・テーマソング等コンテンツ × 動画&SNS による広報啓発。
- 既存事業 ・支援自販機 ・支援貯金箱 ・支え合い新聞社 2回/年、各800部発行。
・HP 閲覧数2,000回/月 ・2025年度会報誌 6月・300部発行

6) スタッフ紹介



青戸理事長



よーこさん



アキラさん



シモさん



アキラ君



ユウコさん



タカさん



かずや IT アドバイザー



7) テーマソングのご紹介



基金のホームページから視聴して頂けます
右記の二次元バーコードからお入りください



8) 編集後記



『競争から協働へ』をスローガンに掲げ、老若男女やAIとも協働を行ってきた2025年度。確かな一歩を積み重ねることができた年度であると実感しています。

2026年度は、また1つ、この土台に新たな1つを積み上げる為、「多世代協働！いま、その時がきた」のスローガン掲げ、さらに志免町の愛エネルギーを結集できるよう関係各位と繋がっていきます。

『つながる手～志免のまちで～』の詩にある町に向けて、また1つ歩みだします。

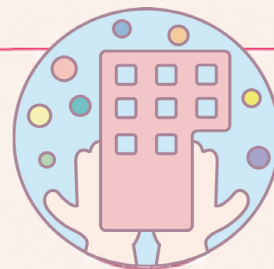


9) ご寄付の振込口座について



トケイジ エリカット ウホウジ ソシメチイササエアゴ ジョキキ

口座名義： 特定非営利活動法人志免地域支え合い互助基金
西日本シティ銀行 博多支店【店番 217】(普通) No.3116590
福岡銀行 志免支店【店番 236】(普通) No.1770312
ゆうちょ銀行振替口座 01730-7-147585 (代表者名等なし)



NPO 法人 志免地域支え合い互助基金

〒811-2205 福岡県糟屋郡志免町別府 2-2-1 医療介護施設かめやま内
電話：092-692-1512 FAX：092-937-6141 E-mail：shimekikin@gmail.com
URL：https://shimekikin.org Instagram：shimekikin YouTube：@shimekikin